

太平洋戦争終戦の半年前に福岡刑務所で獄死し、韓国でも広く愛唱されている国民的詩人・尹東柱（一九一七—四五）の没後六十年を記念する追悼の集いが、留学生を送った東京、京都と終えん之地・福岡で十一日から十三日にかけて相次いで開かれる。今年には日韓外交正常化四十周年で「日韓友情年」。尹東柱の生と死と、彼の詩に込められた平和への願いを振り返り、西国の人々の新しい関係を語り合う場になる。

Nm 050208

尹東柱を友情年に語ろう



詩人・尹東柱
(延禧専門学校卒業時)

あり、「死ぬ日まで空を仰ぎ／＼一点の恥もないこと」を、」で始まる代表作「序詩」は、韓国で知らない人がいないほど愛されている。日本では八四年に全詩集（伊吹郷訳、影書房）が出版され、詩人茨木のり子さんの尹東柱に関するエッセーが高校の国語の教科書に採用されたこともある。没後五十年を機に市民グループもできた。「福岡・尹東柱の詩を読む会」は九四年暮れに発足。翌年の二月に福岡市で日韓合同の追悼式を行ってからこれまでに百回を超す月例会を重ね、十年になる。作品を毎月一編ずつ、この

詩人・尹東柱（ユン・ドンジュ）1917年12月、旧満州（中国東北部）の間島地方に生まれ、ソウルの延禧専門学校（現・延世大学）を卒業後、翌42年に渡日。立教大を経て同志社大在学中の43年7月、治安維持法違反容疑で逮捕された。当時、使用を禁じられていたハングルで詩を書き、友人と独立の夢を語ったことを罪として京都地裁で44年3月、懲役2年の判決を言い渡され、福岡で服役中、45年2月16日に27歳で亡くなった。

つ読み、語り合ってきた。京都では九五年、同志社大構内に「序詩」を刻んだ詩碑が建てられた。東京では九九年に「尹東柱の故郷をたずねる会」が発足。同年、中国東北部の延辺朝鮮族自治州にある尹東柱の生地を訪れた後、学習会や講演会を開いたり、国内のどこかに残っている可能性がある尹東柱の蔵書を古書店で探したりするなど、地道な活動を続けている。

平和への願いや、正常化40年の日韓関係

福岡市早良区の百道西公園（福岡拘置所横）で追悼式。午後3時半から近くのものもちパレード集い（会費1000円）を開く。参加自由。当日は花を一本ずつ持ち地下鉄藤崎駅改札口に午後1時集合。問い合わせは「福岡・尹東柱の詩を読む会」事務局の馬木美喜子さん（090・7460・5631）。



福岡・尹東柱の詩を読む会が作った会報第2号

福岡市早良区の百道西公園（福岡拘置所横）で追悼式。午後3時半から近くのものもちパレード集い（会費1000円）を開く。参加自由。当日は花を一本ずつ持ち地下鉄藤崎駅改札口に午後1時集合。問い合わせは「福岡・尹東柱の詩を読む会」事務局の馬木美喜子さん（090・7460・5631）。

彼の詩には透명한叙情性が

60・5631。